

## 「旅」が見せてくれたもの

館長 長谷部 芳彦

何年も前の事。「蟹食べ放題、イクラかけ放題、バフンウニの殻向き体験、ブランド蠣の炭火焼、鮭のしゃぶしゃぶ」といった文字に惹かれ、北海道ツアーに出かけました。観光は全く期待していなかったもので、いつもの旅とは異なり、どこに行くのかもよく把握していないまま出発しました。

一日目の宿泊は阿寒湖。自由時間には凍る湖面上を歩き、良質の温泉にも満たされました。夕食は蟹の食べ放題、朝はイクラのかけ放題。料理はとても美味しくて、宣伝文句に嘘はありませんでした。

二日目は、一日430Kmを超えるバスでの観光が待っていました。「観光も付いているのか。結構な距離を走るな」程度で、期待はしていませんでした。しかし、丹頂鶴が優雅に舞う姿に圧倒されました。自然の中を無邪気にキタキツネが飛び跳ね、エゾジカがゆったりと歩む姿を車窓から見るたびに歓声を上げ、オジロワシやオオワシの凜々しい姿には凄味すら感じました。野付崎という砂嘴（さし）では、生まれて初めて凍った海を歩きました。摩周湖の静寂、遠くに見える雲海等々。北海道の大自然の豊かさに魅了されたこのツアーは単なるグルメ旅ではなく、北海道最東の自然を巡る旅にもなりました。しかし、この旅のメインイベントはグルメと大自然のそれではなくなりました。この旅で私は初めて「北方領土」を見たのです。いつかは、と考えていましたが、思いもよらず、この旅で実現したのです。

北には知床岬、東には野付崎に位置する標津（しべつ）から見える国後島は思いのほか大きく、雪の積もる888mの羅臼岳を始めとして、山並みさえも見えました。北海道最東端、根室半島の納沙布岬から見える歯舞群島にある貝殻島は、岬から3.7kmしか離れておらず、文字通り目と鼻の先の近さであり、理屈ではなく、「あそこは日本だな」と実感しました。電柱看板に掲げられた「返せ北方領土」は、単なるスローガンではなく、この風景を見れば切実な思いであることが伝わってきました。北方館という政府の施設を見学することができ、迷わず北方領土返還を嘆願する書名をしました。

眼前に迫る「北方領土」が、日本の立ち位置の不確かさを考えさせてくれる旅にしてくれました。もし、天気が悪く、国後島や歯舞群島をこの目で観ることができなければ、このツアーは私にとって美味しい食事と大自然を堪能するツアーで終わったはずです。しかし、驚くほどの好天に恵まれたことが、同じツアーを、より意義深いものにしてくれました。「北方領土は間違い無く日本の領土である。」そう実感する旅に。

新型コロナウイルス感染拡大が日々続き、旅どころではない状況です。しかし、こんな時だからこそ、「よき思い出」に思いを馳せるのはいかがでしょう。穏やかな気持ちに少しはなれそうな気がします。本館でも、皆様の活動がよき思い出になるように努めてまいります。皆様の「体現」なくして「三密回避」は成り立ちません。安全は守れません。ご協力の程、よろしく願いいたします